

シロタマゴテングタケ *Amanita verna*

## テングタケ科テングタケ属

## 概要

地方名	イチコロ (新潟), ドグシロコ (秋田)
傘の大きさ	5~10 cm の小型~中型
形と色	傘 : 白色, なめらか。 ひだ : 白色 柄 : 白色で袋状のつば, 基部につぼがある。
発生時期	夏から秋
発生場所	針葉樹林, 広葉樹林の地上に発生する。
その他	ドクツルタケに似ているが柄にささくれがなく, 小型である。同じテングタケ属で白いキノコにシロテングタケがある。
症状	タマゴテングタケ様の中毒症状を示す。 食後6時間から24時間程度でコレラ様の症状(下痢, 嘔吐, 腹痛), 数日後から肝臓肥大, 黄胆, 胃や腸からの出血, その他, 内臓細胞破壊が起こり死に至る場合がある。
毒性成分	ファロトキシン類, アマトキシン類, 溶血性のレクチン
間違えやすい食用きのこ	

## (写真図説)

シロタマゴテングタケ (右) は, ドクツルタケよりも小型で, 柄にささくれがない。

## 似ている他の毒きのこ

シロテングタケ (左) は, 比較的中から大型で, 傘は白く粉で覆われているようである。傘の縁にはつばの崩れた物が垂れ下がっている (赤矢印)。成菌になると落ちてなくなる。柄は白く綿くず状である。うすい黄土色のつぼの名残があるものもある。



## 詳細

## 1 特徴

(1) 毒性成分*1	(成分名) ファロトキシン類, アマトキシン類, 溶血性タンパク
	(構造式)
	ファロトキシン類, アマトキシン類はドクツルタケの項を参照
(2) 食中毒の型	胃腸消化器系
	(毒性成分の含量)
	(毒性発現機構)
(3) 中毒症状	<p>毒成分としてアマニタトキシンを含むため, タマゴテングタケ様の中毒症状を示す。</p> <p><u>タマゴテングタケの症状</u></p> <p>中毒症状が 2 段階に分けて起こる。比較的潜伏期間が長いのが特徴。食後 6~24 時間ほどしてコレラ様の症状 (嘔吐, 下痢, 腹痛) が現れるが 1 日くらいで回復する。その後 4~7 日くらいして肝臓肥大, 黄疸, 胃腸の出血などの内臓の細胞が破壊された結果の症状が現れ死に至る。</p>
(4) 発症時間	食後 6 時間から 24 時間程度
(5) 発症事例*2	<p>(症例 1)</p> <p>平成 4 年 (1992) 夫婦 (男性 53 歳, 女性 52 歳) がきのこ狩りで採った約 30 本のきのこを加熱調理し摂食。摂食 12 時間後に嘔吐, 腹痛, 血液の混じった水様性下痢, 手指のつっぱり感を発症し, 近くの病院に入院した。大量輸液, 強制利尿などが行なわれたが摂食 36 時間後にはビリルビン, GOT の上昇をきたし, 摂食 43 時間後救命救急センターへ転院。入院後 GOT, GPT, LDH, T-Bil, CPK の上昇, PT の延長, 血小板の減少などを認め, 血中毒素除去の目的も兼ねて血漿交換, 血液透析を行った。その他, 強制利尿, グルタチオン製剤, GGI 療法, 肝・腎血流増加を期待した DOA, DOB 持続点滴, DIC 対策としてメシル酸ナファモスタッドを使用。これらの治療により第 5 病日には, 検査値は正常化に向かい, 第 25 病日軽快退院となった。妻も夫と同様の結果であったが, 摂食したきのこ量は夫よりも少なかったためか自覚症状, 肝機能障害はより軽度であった。治療は夫とほぼ同様, 検査値もより早く正常に向かい第 15 病日に軽快退院となった。</p> <p>→[考察]アマニタトキシンは摂食 24 時間以内に血中から消失するとされ, 細胞内に取り込まれたアマニタトキシンによる肝・腎臓機能障害が発現する以前に適切な処置により助かった症例と考えます。</p>

	(症例2) 平成10年(1998)10月29日、栃木県芳賀郡茂木町で5人がシロマツタケと誤って、きのこの煮物にして摂食。摂食後全員嘔吐、下痢などの中毒症状を発症。肝機能低下を認め、うち男性1人が死亡した。栃木県保健環境センターでシロタマゴテングタケと同定された。
	(その他)
(6) 中毒対策	

## 2 毒性成分の分析法

(1)	(説明)
	(図解)

## 3 その他

諸外国での状況	
参考になる情報	<p><u>似ている毒きのこ</u></p> <p>ドクツルタケ(毒)と似ているが、ドクツルタケと比べると「小型である」、「柄にささくれが無い」、「試薬による呈色反応が異なる」といった点から、別種であると考えられる。また、タマゴテングタケの一変種であるとする研究者も少なくない。しかし、いずれにしてもシロタマゴテングタケやドクツルタケのような外部形態をもつ白色のテングタケ属のきのこは世界的に見ても数多く存在しており、それぞれの区別が困難な場合が少なくない。</p> <p>ツルタケの白い変種と考えられているシロツルタケにも似ている。</p>

## 4 間違いやすい食用きのこ

1	一般名	シロオオハラタケ
	学名	<i>Agaricus arvensis</i>
	発生場所	
	発生時期	
	形態	ヒダの色は、若いときは白色、成長するにつれて灰紅色から黒褐色へと変化する。傘、柄に触れると黄変する。

## 引用・参考文献

- 1) 長沢栄史. 「フィールドベスト図鑑 14 日本の毒きのこ」(株) 学習研究社

- 2) 編著者: 奥沢康正, 久世幸吾, 奥沢淳治. 「毒きのこ今昔ー中毒症例を中心にしてー」(株) 思文閣出版